繊維リサイクル技術研究会

繊維廃材を楽器に

楽団「FUB」も結成

日本繊維機械学会の繊維リサイクル技術研究会は、繊維廃材を楽器や楽器部材にリサイクル・アップサイクルする調査・研究に取り組んでいる。演奏実演を通じての検証もできるように会員による楽団「ファイバー・アップサイクル・バンド」（FUB）が結成された。

このほど開催された第146回情報交換会では、文化面から音楽の意味を検討するため特別講演として国立民族学博物館の島村一平准教授が「韻の持つ『憑依性』と音楽―モンゴルのヒップホップの事例から」と題して報告した。文化人類学の観点から韻を踏む音楽的行為が現代におけるシャーマンの役割を担っている可能性を現在のモンゴルのヒップホップを読み解きながら検証した。

意見交換会ではそのほか、テント膜材を利用した和太鼓や繊維廃材による強化プラスチック製カスタネットなど試作品も紹介され、参加者からはさまざまな意見が出された。楽器そのものに利用するだけでなく、楽器の部材に繊維廃材を利用できるのではないかといった意見が出た。

FUBのメンバーが演奏

懇親会ではFUBが登場。森下あおい氏（滋賀県立大学、ピアノ）が団長、豊田宏氏（太陽工業、ベースギター）が副団長を務める。楽団員として田邉謙太朗氏（新内外綿、エレキギター）、永野敬三氏（イズミ、アコースティックギター）、水森吉紀氏（トーア紡コーポレーション、ドラム）、木村照夫氏（京都工芸繊維大学、バイオリン）、井上真理氏（神戸大学、ボーカル）、工藤正弘氏（岐阜県庁、ボーカル）、田村有香氏（京都精華大学、パーカッション、ダンス）、内丸とも子氏（カラーループ、パーカッション）、宮原佑貴子氏（京都光華女子大学、パーカッション）、坂井卓哉氏（カトーテック、ボーカル、ダンス）、東山幸央氏（兵庫県工業技術センター、衣装・グッズ制作）が参加。玄人はだしの演奏を披露した。

を作る撚糸機やアレンジ
ワインダーの紹介、木製
織機″布（フ）トラディ

に新たな活路を作り、
SDGs（持続可能な

が続いている。
品種別では純毛糸が